

目次

1 高次脳機能障害を学ぼう

1. 高次脳機能障がいを学ぼう

社会的行動障害のトレーニングについて

社会的行動障害は、「依存性・退行」「欲求コントロール低下」「感情コントロール低下」「対人技能拙劣」「固執性」「意欲・発動性の低下」「病識の低下」など複数の症状の総称です。生じた症状や生活環境によって、対応方法やトレーニング方法は異なるため、今回はプログラムを立てる際のポイントをご紹介します。

社会的行動障害の症状に対するトレーニングを行う際のポイント

■ まずは本人の困り度に合わせて少しずつ進めよう

例)「泥酔するまでお酒を飲んでしまう」は何が困るでしょう？

→ 「奥さんに怒られる」「お小遣いが無くなる」「転んでけがをした」「一緒に飲みに行った友人に迷惑をかけた」「飲みすぎて太ってきた」など、何に困っているかはそれぞれ異なります。

※「どうしたらお酒を飲みすぎないか？」ではなく、「どうしたら奥さんに怒られないか？」など、本人が困ることにも注目しましょう。また、周りが困っていても本人は全く困っていない時は、まず本人の考えを聞いてみましょう。

■ 現実的なプログラムを立てよう

「お酒をあるだけ飲んでしまう」⇒ ×「今日から断酒する！」

△「飲みすぎないように気を付ける」

○「休みの前日なら飲んでも良い」

○「家にお酒をたくさん置かない」

※最初から高いハードルを設定するとすぐに苦しくなることがあります。逆にハードルが低すぎるとすぐに元通りに戻る可能性があります。まずは関わる家族と本人の双方が納得できる現実的なプログラムを考えてみましょう。

■ 教えるのではなく気づいてもらう

タイミングを見極めて、リアルフィードバックを行う

不適切な行動に対して、「不適切だ」とはっきり伝えることも大切ですが、一方的に伝えるのではなく、本人が気づく機会を作ることも大切です。効果的な方法の一つに、「今の行動は不適切かもしれない」と本人が感じたその時に、客観的事実を伝えて振り返るリアルフィードバックがあります。しかし、興奮している時に事実を突きつけることは火に油を注ぐ結果になりやすいので、落ち着いて話ができる状態かどうか見極めてから関わりましょう。

社会的行動障害の症状だけではなく、記憶障害などその他の障害を併発している場合も少なくないため、専門機関と協力しながら進めていきましょう。



衣替えの準備は
終わりましたか？